PRESS RELEASE
（2021/10/20）

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所
Forestry and Forest Products Research Institute

戸隠を知る会

報道関係者各位

花の数が 100 以上あるウワミズザクラを発見
－研究素材や花木としての利用に期待－

ポイント
- **一つの花序につく花の数が 100 以上あるウワミズザクラの新しい品種を命名しました**
- **新品種は、発見した長野県のほか、宮城県から京都府の広い地域でも存在していました**
- **果樹育種などの研究素材や新たな花木としての利用が期待されます**

概要
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所と戸隠（とがくし）を知る会は、ウワミズザクラの新品種を発見し、フサザキウワミズザクラと命名しました。フサザキウワミズザクラは長野県長野市の自然林から発見されました。ウワミズザクラは長さ8～10cmの花序軸に20～50個の花を1本の花序軸につけますが、フサザキウワミズザクラは花序軸がさらに分枝して、それぞれに花をつけるのが特徴で、1つの花序に全体で100個を超える花をつけることもありました。調査を進めると、このような花をつける個体は、宮城県から京都府にかけて広い範囲でも見られることがわかりました。花序の変異を示す学術上の貴重な存在であることに加え、果樹育種などの研究素材や新たな花木として利用が期待されます。このフサザキウワミズザクラは、新しい品種として2021年10月20日発行の植物研究雑誌96巻5号に発表されました。

背景
バラ科ウワミズザクラ属*1のウワミズザクラ（*Padus grayana* (Maxim.) C.K.Schneid.）は、サクラ属に近縁の落葉高木で、北海道から九州に広く分布しています。冷温帯の森林でふつうに見られ、木材は家具や器具などとして利用されています。また蕾や若い果実の塩漬けを杏仁子（あんにんご）として食用にする地域もあります。ユーラシア大陸に広く分布する近縁のエゾノウワミズザクラは、ヨーロッパでは花木としても利用されており、日本でもウワミズザクラ類の園芸的利用が期待されています。

内容
2021 年 4 月に戸隠（とがくし）を知る会の林部氏は、長野県長野市の自然林でこれまで見たことがない 1 本の木を見つけました。一見ウワミズザクラのようですが、花序*2の形態が異なります（図 1）。そこで、サクラ類の分類に詳しい機関である森林総合研究所がこの樹木の研究に共同で取り組みました。
ふつうのウワミズザクラは長さ 8～10cm の花序軸に 20～50 個の花をブラシのようにつける総状花序*3です。ところが、この個体はほかの形態はウワミズザクラと違いはありませんが、花序軸がさらに分枝して、それぞれに花をつける複総状花序*3でした。突然変異によって花序の形態が変化したと推定されました。ふつうであれば 1 個の花となる部分が、二次花序となって 2～14 個の花をつけるため、全体では 100 個を超える花をつける花序も見られました。これまでウワミズザクラ属の樹木において、複総状花序は報告されておらず、きわめて特異的な変異と考えられました。
調査を続けると、長野市内で 3 個体、および新潟県妙高市で 1 個体の同様の花をもつものを新た

に発見しました。またインターネット上で公開されている写真を利用して探索をおこなったところ、宮城県、東京都、京都府にも存在することがわかりました。この変異は全国に存在する可能性が示されたのです。

そこで、この突然変異のウワミズザクラを新しい品種フサザキウワミズザクラ（*Padus grayana* (Maxim.) C.K.Schneid. f. *paniculata* T.Katsuki & Hayashibe）と命名し、植物研究雑誌 96 巻 5 号で発表しました。学名の根拠となるホロタイプ標本は長野県環境保全研究所植物標本庫に収蔵されています。

今後の展開

フサザキウワミズザクラの花は、とても見栄えがすることから（図 2）、新たな花木としての利用が考えられます。一方、こうした突然変異の遺伝子を解析することで、花の構造や果樹育種の研究に貢献することも期待されます。フサザキウワミズザクラの形態が毎年同じように見られるのか、また、次世代にも受け継がれるのかといった点については、今後長期間の検証が必要です。今回の発見は自然観察から生まれましたが、身近な自然林の中には、よく観察するとほかにも貴重な遺伝資源が眠っているかもしれません。

論文

タイトル：A new form of *Padus grayana* (Rosaceae) discovered at Nagano Prefecture, Japan（長野県で発見されたウワミズザクラの新品種）

著　　者：Toshio Katsuki（勝木俊雄・森林総合研究所） and Naoki Hayashibe（林部直樹・戸隠を知る会）

掲 載 誌：The Journal of Japanese Botany（植物研究雑誌） 96 巻 5 号（2021 年 10 月）予定

用語解説

＊1　ウワミズザクラ属

ヤマザクラやウメ、スモモ、ウワミズザクラなどを広義のサクラ属（*Prunus*）として分類することもあるが、近年ではこれらを細分化し、狭義のサクラ属（*Cerasus*）やスモモ属（*Prunus*）などに分類することが多い。この細分化した分類体系では、ウワミズザクラは *Padus* 属として、ヤマザクラやスモモなどから区別される。

＊2　花序（かじょ）

花のついた枝全体、および花のつきかたを表す植物学用語。ウワミズザクラ属は、総状花序[*3]となることが特徴で、ひとつの花序に数十個の花がブラシ状につく。

＊3　総状花序（そうじょうかじょ）　複総状花序（ふくそうじょうかじょ）

花序の型を表す植物学用語。花序軸にほぼ均等に花がつく特徴は同じだが、総状花序は 1 本の花序軸だけあるが、複総状花序は花序軸が分枝した二次花序軸もあることが特徴。

お問い合わせ先

【研究に関するお問い合わせ】
森林総合研究所　九州支所
地域研究監　勝木俊雄

戸隠を知る会
担当　中村千賀（長野市立博物館分館 戸隠地質化石博物館 内）

【報道に関するお問い合わせ】
森林総合研究所　企画部広報普及科広報係
Tel：029-829-8372　E-mail：kouho@ffpri.affrc.go.jp

本資料は、農政クラブ、農林記者会、林政記者クラブ、筑波研究学園都市記者会、長野県庁会見場に配付しています。

図、表、写真等

図 1 フサザキウワミズザクラ（左）とふつうのウワミズザクラ（右）の花序

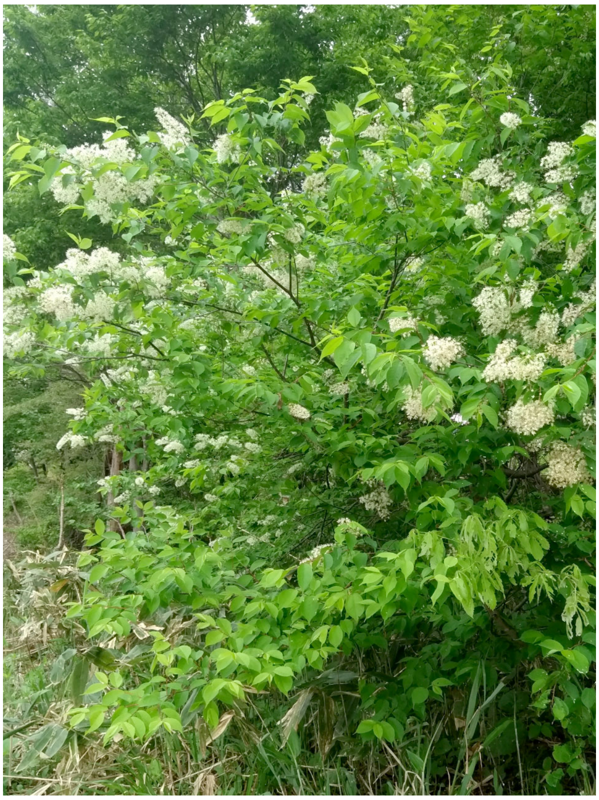

図 2 フサザキウワミズザクラが開花している様子